

あかつか

新潟市立赤塚小学校 学校だより
令和5年度 第4号
発行日 2023年7月21日
TEL 025-239-2019 FAX 025-239-3803

失われた学びを取り戻す

今回は前回の便りの続きみたいな感じです

校長 南伸裕



夏休みを前に、これまでの子どもたちのトラブルやいじめアンケート、学びの様子などを改めて振り返っていると、コロナ前と今日の姿とでは少し違っているように思います。

何が違うのかという決定的なことはないのですが、例えばトラブルやいじめの原因の部分がどうも幼い感じがしたり、深く考えてからの行動ではないことが多いように思います。条件反射的と言いますか軽はずみなことからトラブルに発展し、そして収集がつかなくなっていることが多いのです。

【中学生と一緒にあいさつ運動】

これは明らかにトラブルに対する経験不足です。このことについて教師や大人は、経験や知識があるから、それらのトラブルや問題について子どもたちに色々説諭してはみるものの、なかなか改善には至りません。なんだか昔と違って打っても響かないのです。そんな時、思わず焦ってしまいます。

それはなんでなんだろう。どうして子どもたちに染みていかないんだろう？と考えてみました。私はこれもやっぱりコロナに起因しているのではないかと思います。



【用務員さんと一緒にスイカ栽培】

6年生を12歳とするとこれまでの人生の1/4 1年生を7歳とすると人生の3/7 およそ半分の期間がひたすら我慢を強いられ、本来あるべき他者との関わりを制限されていたのです。したがって、そこにおけるトラブルの解決のプロセスについてしっかりと経験することができず(ほぼ大人が解決する)。実際に何かあった場合に、どうしたらよいかという方法や知識が十分ではない状態にあるのです。しかし、その時、我々教師や大人は、子どもたちの失われた時間を考えることなく、経験上あるべき姿を



【5年生自然体験教室】

子どもの思っていることはひらきがあると思います(今回 大人はできることが当たり前と思っている 子どもは経験値が不足しているのでよくわからないと思っ
ている ということかな)。

この、失われた3年間の経験値を取り戻すため、クラスの中での関わりを超えた関わり、そして意図した関わりの設定が大切だと考えています。先だって紹介しました「青空ミーティング」もその一つです。

先日2回目を行いました。テーマは「地域の公園の使い方」についてです。その後日談が素敵でした。以下紹介します。縦割り班での話し合いにも関わらず、ミーティングを行った放課後に、5年生と6年生がそれぞれクラス内で声を掛け合って地域の公園のゴミ拾いをしたというのです(別々の公園だそうです)。これは学校から指導したことではありません。問題について子どもたちが自ら考え実行したことです。そしてこのことは、縦の関係での話し合いがいつの間にか横への広がりをもっていたということになります。又、話し合いを行うことでより自らの問題になったということです。私は、これはすごいことだ！子どもの思考力・判断力が急激に働きはじめている！と感じました。また、6年生の中で、玄関の朝顔に朝水やりをしてくれるお子さんも時を同じくして出てきました。これもゴミ拾いと同様、自分で考え・実行していることです。こういった動きが広がっていったらなあ～。そしたら一気に時間が取り戻せるなあ。と子どもたちをみながら嬉しく思っています。

さて、いよいよ夏休みです。コロナ禍を経ての夏休み 令和型教育が実践できる



【1年生体験型交通安全教室】

何もわかっていない子どもに求めてしまい、結局は、焦ってしまうのではないかと思います。

ですが、このことは全てのお子さんに当てはまるわけではありませんし、しかも飛躍した考えかもしれません。しかし、トラブルの聞き取りの際、そのお子さんの年齢から3年(コロナ禍)を引いた年齢の事例と考え、慌てず、丁寧に諭していくことがこれまで効果的であったように感じます。それは低学年においてはなおさらです。

ということで、前回の便りではないのですが大人の思っていることと子

初めての夏休みです。お家の方々、そして感じ考え動きはじめた赤塚っ子の皆さん。どうか、事故・病・怪我には気をつけて、そして多くの関わりをもち、自分で考え実行できる機会が多い、実りある時間を過ごしていただけたらと思います。

新年度が始まってこれまで4ヶ月間ありがとうございました。そして、夏休み明け、元気な顔が揃うのを待ちます。